

S - 2 - 6

C型慢性肝疾患に対するGPT年平均80単位未満を目標とした十全大補湯投与の試み

神奈川県立がんセンター

○多羅尾和郎, 岡本 堯

われわれは以前にC型肝炎硬変症, Child Astageにおいては, GPT 年平均値が 80 単位以上の高値で持続すると肝細胞癌が年率 11% の高率に発生するのに対し, GPT 年平均値が 80 単位未満で持続すると, 年率 2.5% しか発生せず super-low-risk 群となることを発見した。そこで 1989 年以来 GPT 年平均 80 単位未満を目標として, 通常の肝庇護薬である強力ネオミノファーゲン C, UDCA, 小柴胡湯, 十全大補湯を 1 剤で不十分なら 2 剤, 2 剤で不十分なら 3 剤を併用して用いる多剤併用療法を行い, 現在まで 65 例を 5 年以上観察し, 肝発癌率を年率 3.4% と全国平均の 6 ~ 7 % の 1 / 2 まで下降させることに成功した。また, C 型慢性肝炎 70 例に対しても同様の Strategy を施行し, こちらの方は, 肝発癌率 0.7% と, 全国平均の年率 1.5% の半分にまで下降せしめた。これらの過程において, C 型肝炎硬変症に対しては 10 例に十全大補湯を投与し 5 例で年平均値を 80 単位未満にすることに成功し, また, C 型慢性肝炎に対しては 3 例に投与し, 内 1 例で 80 単位未満に GPT 値を下降させることに成功した。今だ症例は比較的少ないが, 補剤である十全大補湯は C 型慢性肝疾患の GPT 降下に有効である症例が存在することを証明し, 特に C 型肝炎硬変症において有効率が比較的高いことを証明し得た。多数例での十全大補湯の GPT 降下作用に関する試みは, われわれの試みの他は今まで文献がなく報告の価値があり, 肝発癌予防の試みの一環として意義あることと思われここに報告する。

また, この他に, 十全大補湯の肝癌に対する抗腫瘍効果として, 治療不能な進行肝癌に対して UFT + 十全大補湯が著効を示した一例をも症例報告する。